

文芸春秋

6

立川と語ろう 立川に生きよう
June 2009
écoutez bien Vol.27 No.295





仲間と一緒にガッツリ食べる



和牛ステーキ

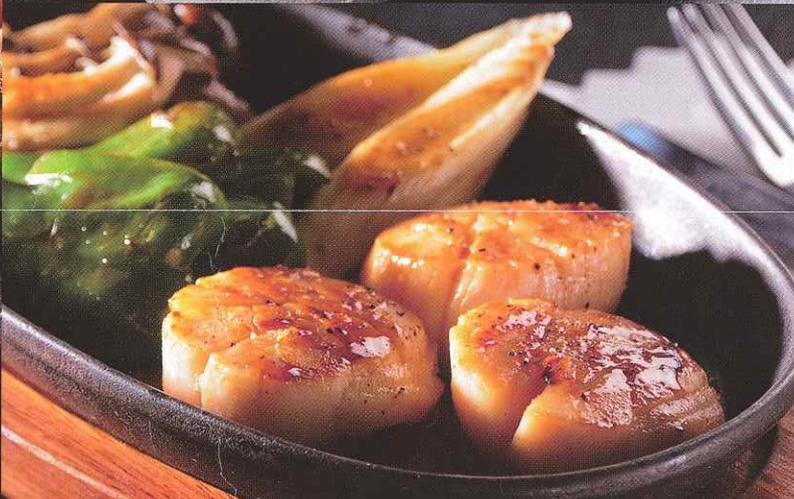
どこもそうなのだろうが、街は駅を一步出て歩き始めるとその素顔が見えてくる。作られた顔ではない、地元の人柄が表れた街並みや風景、店や味に出会える。梅雨時の雨の合間に散歩して、立川ならではのおいしい味に出くわすと嬉しい。

曙町3丁目。緑川通り沿いにある千珠。鉄板焼きの店だ。JR立川駅から歩けば12、3分はかかる立地なのに、毎日12時を回る頃には席の大半は埋まっている。その秘密を探りに行ってきた。

馬刺が出される。きれいな赤身にすこし脂が差している。好みでしょうがやんにく、薬味と一緒にいただく。サッパリしているが、脂のとける温度が低いので、口に入れると甘いと感ずるほど柔らかい。肉を食べている感覚がないのはヘルシーな証拠だろうかなどと考えているうちに、今度はレバ刺し。皮を剥がされたレバーは、プリプリと光りながら溶け出してしまいそう。胡麻の入った塩ダレをつけていただいた。クリ〜ミ〜。不思議なほど臭みがなくて、トロツとした食感に、馬刺と交互に箸が伸びる。



レバ刺し・馬刺



ホタテステーキ

シェフは刺身用のホタテをステーキにしてしまう大判振る舞い。付け合わせの野菜もさっと焼いて、熱々の鉄板に。湯気と香りと音が混じりあう。文句なしのごちそう! 大きなホタテを半分に分けると、中はほんのり透明。口に入れると貝の甘みと香りがたまらない。ランチでも同じメニューが味わえて、ご飯も汁ものもついてくる。

千珠に来て、はずせないのはステーキ。今日は夜のメニューから和牛のステーキにしてもらった。300gの豪華さ。炭火焼とは違う、表面を焼き付ける感じの鉄板焼き。中から脂が溶け出でてきて和牛独特の香りを漂わせる。さっと味付けをしたところで、紅葉おろしとバターしょうゆに分けてくれた。柔らかい。お肉はやっぱりおいしいなあ。

仲間と一緒に来て、ガッツリいただくといい。あれもこれもいろいろな味を味わえる。財布の中身をあまり気にしなくていい。それも「ごちそう」の大事な条件だ。

親の役割って大きいですよ

環境省環境カウンセラー・東京都環境学習リーダー
山岸 修子さん



於：国営昭和記念公園「花みどり文化センター」カフェ

山岸 こんにちは。来る途中おもしろいものを拾ったので袋に入れてきました。何だかわかります？ 手でもんで匂いをかいでみるとわかるかもしれません。
芳賀 何の葉っぱですか？ いい匂いがしますね……ひょっとして、クスノキ？
山岸 正解！（笑）。常緑樹ですが春に古い葉から落葉するんです。昔はクスノキから防虫剤の樟脳をとったでしょ。葉っぱもそんな匂いがします。防虫剤になるのに虫が食べた痕もあります。アオスジアゲハの幼虫がこの葉を食べるんです。いつも子どもたちを連れていく時、このように五感でいろいろなもの、いろいろなことに気づく機会を作っています。気づいたら「良く気がついたね！」。その中から自然に関心を持つ子どもも出

てきます。
芳賀 楽しそうですね。山岸さんはどうして環境学習とかエコロジーの活動に関わるようになったんですか？
山岸 きっかけはガールスカウトです。もう大人になりましたが娘がふたりいて、結婚してしばらくは夫とお店をしていて子どもをどこかに連れていくこともできませんでした。団体に入ればいろいろ体験をさせてもらえるだろうとガールスカウトに。そのうち私の方がめり込んで（笑）。スカウトたちに自然を学ばせようとしたら、こちらが何も知らなくてどうしていいかわからない。講師を頼むお金もないし、自分から出かけて学んでくればいいと、日本自然保護協会の自然観察指導員の講座に行きました。遊

■ 山岸修子（やまぎし・しゅうこ）／長野県佐久市生まれ。昭和38年に結婚して以来立川で暮らす。環境省環境カウンセラー、東京都環境学習リーダーとして市内の小学校の自然観察授業や「こどもエコクラブ」の指導にあたるほか、今年の「春の楽市」で初めて食器を使い捨てしない再使用システムを実現するなど、幅広く「エコ」活動に関わる。
 ■ 芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集長

びの要素も必要だろうと日本ネイチャーゲーム協会のリーダー養成講座にも。遊びをしながら子どもを自然に導入していくという点では、どちらもとても優れています。高尾山ビジターセンターのボランティアも10年ほど。これも地域で活動するようになって役立ちました。

芳賀 すごい行動力だなあ。
山岸 思い立ったり興味を持つと、パァーッと走り出しちゃう（笑）。ガールスカウトは子どもが減って団がなくなったんですが、ちょうどその頃に「こどもエコクラブ」を立ち上げることになり、今もお母さんと子どもたちで自然と親しんだり公園のお掃除をする活動をしています。先日の「楽市」で緑の募金をしていたのが「エコクラブ」の子どもたち。「あぜっこクラブ」というクラブで子どもたちとたんぼづくりをしていた時期もあります。「たまがわみらいパーク」でエコに配慮したクッキング教室をしたり、立川市が養成する「エコパートナー」の人たちと野草天ぷらをしたり……自分が楽しいからやっているんでしょうね。自分でもいくつものことに関わっているのか、時々わからなくなります。
芳賀 「春の楽市」では、会場全体に「エコ」が大きなテーマになっていましたね。その中でも山岸さんたちがなさっていた食器再使用システムは新しい試みでした。参加したのは三つの出店者だけでしたが、自分が食べた食器を布きれで拭き、洗って返すと50円バック。僕も使い捨ての容器が山のようにゴミになっているのを見ると申し訳ない気持ちになるので、いい試みだなと思いました。しっかり50円いただきましたし（笑）。
山岸 環境のことに関わってきて、あまりに状況が悪いので、少しでもゴミを出

さない方法はないかと、いろいろ調べて立川でもやってみようということになりました。本当に限られた期間で準備したのでうまく運営できるか、理解が得られるか不安もありましたけど、ボランティアの方たちが頑張ってくださいましたし、お客さんで小さな子どもを連れてお父さんが気持良く食器を洗ってくださったり、市長や市議会議員の方たちも来てくださったりして、少しほっとしました。「ディッシュ・リユース・システム」という名前です。すでに取り組んでいる地域もあります。立川の「楽市」のように延べ6万人も来る会場で本格的にやろうとすると大変です。「秋の楽市」以降にどうつなげていくか、ですね。

芳賀 最初は小さな芽でも、まずやってみないと始まりませんものね。
山岸 衛生上の問題がありますから、お客さんが洗ってくれた食器をもう一度洗剤を使って洗い煮沸消毒をして再使用するの、手間がかかります。自治体によっては、それを自動的にやってしまう装置を積み込んだ車を使ったりしているところもあります。高価なものですし、最初から楽はしたくないんです。自分たちで汗をかいて、賛同してくれる人たちがいて広がっていくといいな。環境問題すべてについて言えることですが、私はそういうやり方が好きです。あれもやりたい、これもやりたいで気持ちばかり先走ってしまるところもありますが……。
芳賀 僕は驚いたんですが、着古したTシャツみたいな布をきれいに洗って切った布は本当に汚れを吸収してくれるんですね。これは自分の家でもやろうと思いましたね。
山岸 そこなんです。ああいうイベント会場でエコの体験をした人が自宅でもエ

コに取り組んでくれると、大きく広がりますよね。イベントのエコから「うちエコ」へ。いちどやってみることで、ゴミを減らす実感も水の大切さもわかる。それを自分の生活や行動にしていくことで、環境の問題はずいぶん変わると思います。

芳賀 「楽市」の会場でお父さんがエコに協力して食器を洗ってくれた経験をした子どもたちが、自分たちでも食べた食器をぬぐってから洗う習慣がつくかもしれない。
山岸 親の役割って大きいですよ。私なんかは自分であれこれのめり込んでいるんですが、娘のひとりがある時「困った時はお母さんがどうしていたかなって思い出す」と。ありがたいと思うのと同時に、やはり親としていかにできることはできないかなど。今の子どもは自然とのつき合い方を親から教えてもらうことがほとんどありません。逆に例えば「カメムシは臭い匂いを出す」などという知識だけ与えられている。「かいごらん。いじめたりしなないと臭い匂いは出さないのよ」とかがせると初めて、ふだんは臭い虫じゃないと気づくんです。子どもは興味と可能性のかたまりです。子どもが道端の草花などに興味を示したとき、せめてお母さんが一緒にのぞいてみられると、自然やエコへの感性はもっと大きく育つと思いますね。



中国健康マッサージ 養身堂	528-0366
不動産 大晋商事	525-3110
ヤマハエブリプラス立川店	523-1431
蕎麦 懐石 無庵	524-0512
TABACCONIST ゼフィルス	524-0514
ブティック ASHUTE VENI-VENI	521-1481
ピストロ シェ・タスケ	527-5959
あら井 鮎 総本店	522-2957
たましん すまいるプラザ立川	0120-667-646
三田 花店 ルミネ立川店	527-5587
KIRIN COFFEE ルミネ店	527-2322
オリオン書房 ルミネ立川店	527-2311
和生菓子製造直売 日の出屋本店	522-3308
オリオン書房 第一デパート店	523-3311
みずほ銀行 立川支店	524-3121
お菓子の家 エミリーフローゲ本店	527-1138
カフェ クリムト	526-3030
宮地楽器 MUSIC JOY 立川北	527-6888
本格派ジェラート店 TAKE THE HONEY	523-8200
三井住友銀行 立川支店	522-2151

えくてびあんの輪
 立川と語ろう 立川に生きよう
 えくてびあんは
 リストのお店にいつもあります
 今月は 曙町のお店です。

Italian Cuisine サヴィニ	525-1662
東京赤十字血液センター	527-1140
Art & Caffee Room 新紀元	528-6952
多摩信用金庫 本店	526-1111
たましんギャラリー	526-1111
旬彩 懐石 若草茶屋	526-0010
三上 鯉 節店	522-3259
F M たちかわ	535-6240
輸入文具 ホワイトハウス	525-8558
スタンドグラス ぱさーじゅ	522-1941
輸入雑貨 BASE 26	548-4326
スバゲティー専門店 はしや	528-2338
フランス風家庭料理 ラ・フランス	529-5522
ビックカメラ 立川店	548-1111
Wine & Dining るもん	527-3022
大衆割烹 玉河	522-2654
三菱東京UFJ銀行 立川支店	524-4121
ローソン 立川曙町二丁目店	526-7652
カフェ アバン	527-4479
ダイエー 立川店	525-0331

Change!

姿を変えるめがね橋

中央線開通120周年の年、歴史を刻んだ橋撤去

平成21年3月8日未明、進められてきた架け替え工事に伴い、近隣住民に親しまれてきた中央線にかかる橋、通称「めがね橋」が撤去された。深夜にもかかわらず、集まった人たちが作業に見入っていた。

現在のJR中央線の前身 甲武鉄道が開通したのは明治22年。4月11日に新宿—立川間27.4キロが開業した。8月11日には八王子まで開通し、これにより新宿—八王子間全通。120年を記念して、本年4月11日にはJR立川駅でイベントが行われた。傍らで、鉄道とともに歴史を刻んできためがね橋がひっそりと姿を消した。3月8日の未明だった。

もともと立川は平坦な土地。甲武鉄道の開通は、土地を掘抜く(切り通し)を必要とし、橋のない地に橋がかかるようになった。

当時の立川駅舎やめがね橋、山中陸橋の様子は、立川村十二景にも美しく描かれている。柴崎町と富士見町を結ぶ小さな橋(めがね橋)も、明治の頃は土の橋。単線の線路をひとつ掘り抜いてレンガで固めた「遠目がね」を意味している。

明治39年には政府が甲武鉄道を買収、国有化され中央線となった。以後鉄道はさらに発展伸張し、中央線も電化、複線化へと進む。めがね橋も姿をかえた。土橋に代わったのは、その後80年近く親しまれるレール利用のアーチ橋。両たもとには名残のレンガ積みも見えている。イングランド製のレールで、この度の撤去でわかったことだが、刻印には1888年の製造年が。121年もの歴史を刻んで、この日引退した。

3月8日の未明、日本に数台しかないという大型クレーン車が稼働。めがね橋をゆっくりとつり上げた。空が白々とあける頃には、めがね橋はそっと道の傍らに置かれ、いつのまにか姿を消した。

街の変化に対応し、今度はどんな形になるのか「めがね橋」。



立川村十二景「山中眼鏡橋」

立川駅

山中陸橋

四月十一日から五月六日まで
駅コンコース内で行われたパネル展

立川の話題いっぱい!
わたしとあなたとたちかわを
結ぶ街ナビネット
多摩てばこnet
T a m a t e b a k o n e t
www.tamatebakonet.jp/
立川市柴崎町2-1-10
高島ビル4F
TEL/042-548-9606

jorakugajo
真如苑提供番組<常楽我淨>
スカイパーフェクTV 216ch
マイテレビアナログ 11ch
デジタル 111ch
放送時間については番組表をご確認ください。
www.shinnyo-en.or.jp

立川産の
朝採り野菜を
食卓へ
5月～9月 12:00～18:00
10月～2月 12:00～17:00
休日 日曜・祭日
JA東京みどり 幸町直売所
〒190-0002 立川市幸町1-14-1
Tel 042-536-2439

FM84.4MHz
FMたちかわ
おとやもとなり
音楽屋元就の
多摩てばこラジオ
日曜午前 11:00～11:30
提供: えくてびあん
●リクエスト・ご意見は●
tbox@fm844.jp

株式会社 大廣社
〒190-0022 東京都立川市柴崎町5-17-13
Tel. 042-527-1911
Fax. 042-527-1949
E-mail info@daikousya.jp
http://www.daikousya.jp/index.html

えくてびあん流

おかみさんたちのエコに大賞

「春の楽市」で第1回 立川市環境賞



4月26日開かれた立川「春の楽市」会場で第1回の立川環境賞の授与式が行われ、大賞の立川商連女性部会などに清水市長から賞状が授与された。

燃やすゴミの50%削減を目指す市が、団体、個人のエコ活動を顕彰するこの賞。第1回大賞となった商連女性部会は、個人商店のおかみさんたちが取り組んだ「一店一

エコ」や「容器を持ってお買い物」「自店のゴミをゴミにしない」などの活動が高く評価された。

準大賞には市立五小と協力し学校の花いっぱい運動に取り組んでいる高松町「ビオラの会」、テーマ賞に損保ジャパン西東京支店、学校賞に市立松中小が選ばれた。また、市のエコパートナー講座第1期を修了した22名のエコパートナー認定式も行われ、今年の立川のテーマは、ずばり「エコ」。

この人この店 ⑦

おしゃべりカフェ

トーク・スペース

田辺洋子さん 高橋和子さん 入澤フサ子さん

柴崎中央公園の向かい側、角にある小さなお店。ガラス窓の向こうではいつも忙しそうに働いている田辺さんと入澤さん。ランチが食べられると聞いて入ってみると、高橋さんが階段を上ったり下りたり。



2階は6席の狭い空間なのに、座ってみると妙に落ち着いてしまいます。さらに4階は畳になっていて、2時以降は独り占め。お友達とゆっくりおしゃべりできそうです。ランチはデザートとコーヒーがついて800円。すべて手作り、まさにおふくろの味。常連さんは毎日来てくださるとか。家庭料理は飽きないですね。日替わりで食べられるなんて、本当にお家にいるみたい。こんでいるお昼時をはずして、パンやスイーツでティータイム。パンは日替わりで約20種類。あんパンの餡ももちろん手作りです。イチゴジャムもカスタードも手作り。甘すぎず、しっかり素材の味が生きています。素朴な中に温かさを感じるお店です。



〒190-0023
立川市柴崎町2-2-13 K&Kビル
TEL 042-527-1636
営業時間 昼 11:30～18:00
定休日 土・日・祝日



みどり巡り花めぐり いぎものの中で② 菌類に寄生する植物

緑花文化士 内野健太 (写真も)

ネジバナ



この時期、公園の芝生つけているのをよく見かけの仲間(ラン科植物)でといった場所に生えるもので、街なかで雑草のようかなり変わっていると

言植物自体も植物としてはやや変わった生き方をしています。にネジバナが可愛い花をけます。ネジバナはランすが、森林や高原、湿原の多いラン科植物の中に生活をするネジバナはえます。そしてラン科植物

普通、植物は種子に親植物からもらった養分を蓄え、芽を出して自力で栄養を取れるようになるまでは、その養分を使って成長します。ところがラン科植物の種子はそのような養分を全く持たずに放り出されます。自力では芽を出すこともできません。芽を出すためには、まず特定の菌類(キノコ・カビの仲間)が種子の中に入り込む必要があります。その菌類が作る栄養分でラン科植物はようやく芽を出すことができます。成長したラン科植物の根は、細胞の中に菌類が入り込んで一体化した状態になっています。これを菌根と呼びます。

ラン科植物は、自力で光合成ができるようになってからも、菌根の中の菌類が作り出す栄養の助けがないと生きていけません。そこで植物が菌類に住み家を与え菌類が植物に栄養を与える持ちつ持たれつに関係がある、と考えられてきましたが、菌類の方は植物と関係なく生きていけるし、とりたてていほどの利益も見られません。最近ではむしろラン科植物が菌類を一方的に利用している、つまり寄生している状態と考えられています。

マメ科植物も根粒菌の作り出す栄養に頼ってはいますが、土壌の養分が豊かであれば根粒菌がなくても成長できます。マメ科の種子は栄養をたっぷり蓄え、もちろん自力で発芽できます。しかし、ラン科植物は発芽の時から菌類を必要とし、成長してからもやはり菌類を必要とします。この意味でも菌類に寄生していると言った方が実体に近いでしょう。

たいいていのラン科植物は種類ごとにそれぞれ特定の種類の菌類を利用して生活しています。そのため種子が落ちた場所にその菌がいなければ定着できません。ネジバナは複数の菌類を利用していることが知られています。ネジバナが世界的に広く分布し、またラン科としては例外的に人家付近の環境にもよく適応しているのはそのためかもしれません。

information

●緑花文化士は、「緑・花 試験(緑・花文化の知識認定試験)」で優秀な成績をとられた方に贈られる称号です。22年度以降の新たな展開を期し今年11月がファイナルとなる同試験や緑花文化士について、詳しいことはホームページhttp://www.midori-hanabunka.jpで。●国営昭和記念公園 花みどり文化センターでは、緑花文化士による「緑・花文化を楽しむ講習会」や展示会が開催されています。6月の講習会は7日(日) 鈴木 泰さん「草花の文化史」と多年草を活かした庭づくり、15日(月) 森江晃三さん「植物と水」、21日(日) 山崎 厚さん「薬草を見つけてみよう」。詳しくは国営昭和記念公園花みどり文化センター(電話: 042-526-8787)までお問合せ下さい。

表紙の人

中溝 一恵さん(柏町)

国立音楽大学の中でも古今東西の楽器約2400点を蒐集している楽器学資料館はユニークな存在。その副館長として切り盛りするのがこの方。この分野では国際的に知られる研究者でもある。人間と楽器との関わりは古い。そしてそれぞれの土地や文化によって多彩な発展をしてきた。動物の骨などを使った古代の笛や民族楽器、現在の西洋楽器の原型になった中世ヤルネサンスの楽器、装飾も美しい各時代の鍵盤楽器……それぞれを語る口調から、楽器への愛がにじむ。

国立音楽大学楽器学資料館で
写真: 細江英公

かたこと

次第に濃くなる夏の気配とともに『えくてびあん』をお届けします▼6月といえば梅雨。梅の実が丸まる太り店先に出回ります。ラッキョウもこの時期。うとうしい雨にも楽しみがあります▼日々お天気は変わっても季節は今も昔も変わらず巡ってきます。VIEWはJR中央線にかかる「めがね橋」の架け替えのレポート。明治時代のレンガの橋、このほど撤去された鉄道レール鋼材の橋、どんな新しい橋になるでしょう▼時代とともに変わるものと変わらないもの、変わってはいけないもの。われわれが住んでいる地球こそ日々変わりつつ、変わらず多くの生き物を育んできた代表です。その地球環境が世界的な課題になっています▼対談させていただいた山岸修子さんは、子どもたちが自然と触れ合うきっかけづくりや、「楽市」会場で食器の再利用システムを試みたりと多彩な活動を続けています▼ひとりひとりの力は小さくても、みんなが身近なところで環境や自然のことを考えて行動することが大切なのでしょう▼小さな小さな『えくてびあん』も変わるべきは変わり、それでいてしっかりと変わらない大地を持っているのもです。そうそう「雨降って地固まる」とも言います。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 五来孝平

えくてびあん 6月号

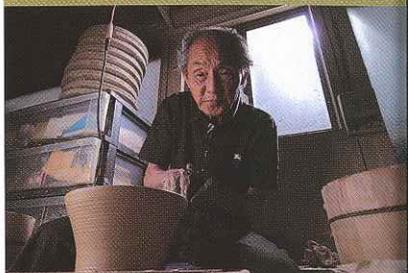
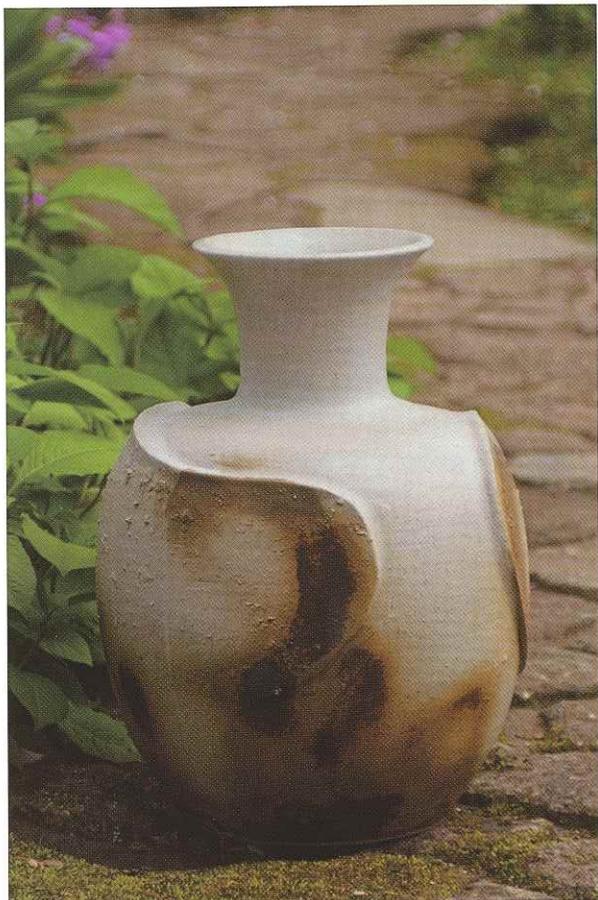
第27巻 通巻295号
平成21年6月1日発行
発行 えくてびあん編集部
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 黒須 環
印刷 (株)大廣社
無断転載を禁じます。

さんしやさんよう

三酒三窯

立川やきもの談義 三

芝田時次さん（富士見町） 上



小学校の教師だったでしょ。四十年近く前、障がいのある子どもたちの学級を受け持つて、最初どう接していいか戸惑った。雨の日に子どもたちが夢中でどろんこ遊びをしているのを見て、これだと。使っていないくらいと窯が学校にあったので子どもたちと始めたのが、きっかけ。担任を外れてもPTAや公民館事業などで指導を頼まれて、自宅の庭に窯をつくってしました。二十五年経つね。「陶祥窯」。陶と祥は二人の娘の名の一字ずつでもあります。

